



2.遺族の想い 感謝と祈り



家族を失った遺族の、平和を願う想い

菊川市遺族会

戦没者への想いを胸に

かつて、多くの戦没者遺族が集い、戦争の悲しみや平和の願いを胸に活動してきた遺族会。現在は高齢化に伴い、以前より会員数や活動の機会が減少しています。それでも、家族を失った悲しみを訴え、平和の尊さを次の世代へ伝えようと、現在も364人（3月末時点）の会員で活動が続けられています。

主な活動の一つが、市内各地に建てられた「慰霊碑」の清掃と管理です。戦後間もない頃は、戦没者の妻たちが亡き夫を想い、始めたとされる慰霊碑の清掃。その想いを引き継ぎ、遺族会が自治会単位で草取りなどを行っています。同会長の鈴木榮^{さかえ}さんは、「戦没者のおかげで今の生活があります。純真に国や家族の安泰を願い戦死した人たちに市民として感謝の気持ちをもつてほしい。市内各地にある慰霊碑の前を通ったら一札してくれる人が増えることを願っています」と話します。

遺族として切なる願い

今なお、世界各地では紛争が絶えず、戦争の脅威が過去のものではないことを私たちは実感させられています。遺族の皆さんの願いは、戦争を二度と繰り返さないこと。そして、今の平和が尊い犠牲の上にあることを忘れず、その感謝を語り継いでいくことです。戦争の終わりがから80年に渡る遺族の皆さんの祈りと行動が、平和を守り続けています。

市内に残る戦争の記憶

戦争で亡くなった人々を追悼する「戦没者慰霊碑」は、学校や公園内など市内に40カ所以上存在します。遺族会や地域の人によって大切に守られた慰霊碑。戦争で亡くなった人の氏名が刻まれているものもあり、後世の人々へ戦争の悲惨さを伝え続けています。

菊川地区慰霊碑



▲舟岡山公園内（加茂4903）

小笠地区慰霊碑



▲下平川1376付近

▼遺族会の理事の皆さん

